

第3回 逗子海水浴場の運営に関する検討会 概要

日時：令和5年10月13日（金）

14時30分～16時30分

場所：逗子市役所5階 第3・4会議室

出席者

[メンバー] 田中 美乃里、飯野 幸、菊井 健一、若菜 克己、横山 健、
山口 正志、須田 武（瀬田 敦子代理）、菊池 俊一、横山 奈緒子、
和田 修芳、菊池 千春、小林 太樹（岡田 和夫代理）、岩佐 正朗、
歌代 光雄（高松 智一代理）

（順不同、敬称略）

[オブザーバー] 横須賀三浦地域県政総合センター企画調整課、逗子警察署地域課、
公益財団法人かながわ海岸美化財団、横須賀土木事務所許認可指導課

[事務局] 逗子市市民協働部経済観光課

課長 黒羽 秀昌、係長 楠元 仁、主事 宮上 敦久、主事 長田 将輝、
主事補 榎本 大悟

欠席者

[メンバー] 黒田 尚弘、熊岡 寛展、來嶋 政史、山口 学、徳本 恒徳

[オブザーバー] 鎌倉保健福祉事務所環境衛生課

会議公開の可否

可

傍聴者

1名

会議次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 令和5年度逗子海水浴場の運営報告
 - (2) 検討会メンバーの所感
3. その他

配布資料

資料1. 令和5年度逗子海水浴場報告書

令和5年度逗子海水浴場の感想（逗子7丁目東自治会）

1 開会

- ・事務局より、検討会は傍聴できることと、マスコミの頭撮りについて説明を行った。
- ・事務局より、資料確認を行った。
- ・本日の会議の趣旨説明を行った。
 - 令和5年度逗子海水浴場の運営について、逗子市作成の報告書に基づき今夏の状況を報告させていただき、各メンバーから所感等をご発言いただきたい。

2 議題

(1) 令和5年度逗子海水浴場の運営報告

- ・事務局から資料1「令和5年度逗子海水浴場報告書」に基づいて、今年度の海水浴場運営について報告を行った。
- ・報告書の内容について質疑があった。
 - 事件や事故について把握しているものはないか。
⇒把握しているものはない。
 - 来場者概数はどのように把握しているのか。
⇒砂浜をいくつかのエリアに分けて、何割人が入っているか等を参考に市職員がカウントしている。
 - 防犯カメラを活用して人数をカウントしているのか。
⇒人流の把握に活用しているが、テントや海の家に入っている人は防犯カメラでは分からないため、来場者数全体は市職員がカウントしている。
 - 具体的に防犯カメラをどう活用したのか。
⇒来場者が増えてくるとアラートのメールが入ってくるため、現場のライフセーバーと確認したうえで、SNSで混雑状況を随時発信していた。
 - 来場者数の減少について、海岸を歩いていた体感と合致するため、リアリティのある数字だと思う。
 - 防犯カメラのライブ映像はどこかで見られるのか。
⇒報告書の13ページに防犯カメラの設置図があり、遊泳区域を中心に満遍なく映るように設置している。映像は個人情報でもあるため非公開であり、職員でも特定の者しか確認できないようになっている。
 - スロープ付きの海の家は、シュガーバンブーの他にもあったか。また、バリアフリー対応の海の家は自主的に設置されたものか、ブルーフラッグに関連して市や海岸組合から依頼をして設置されたものなのか。
⇒ブルーフラッグとは関係なく、車いす利用者でも快適に利用してもらえるようにと事業者が自主的に設置したもの。海岸組合では、車いす利用者が来場した際に、海の家に上がることができる可動式のスロープを2台用意している。また、バリアフリーマットを延ばしながら店内に入れるようにもしている。
 - 通常の手いすで砂浜を走行できるのか。
⇒バリアフリーマットを利用することで通常の手いすでも砂浜を走行可能であり、ランディーズに乗り換えてマットのない場所を走行することも可能である。

- ・各メンバー及びオブザーバーから今年の夏の所感について、発言があった。
 - 今年はずかしたが、熱中症は少なく、アルコールの飲みすぎも比較的少なかった。はじめてのケースだが、期間中に来場者が持病によって生死の境を彷徨うような状況があり、偶然海の家の利用者の中に救命救急士がいて、ライフセーバーとともに救助活動してくれたおかげですぐに回復した。最終的には葉山町のハートセンターに搬送されたが、それ以外はほとんど問題なかった。安全管理としては区域内への犬、ボード、自転車の持ち込みがあった。ルールに従って対応したが、不満な人や反発する人もいた。提案としては、犬の持ち込みについては、近隣の海水浴場の中で逗子だけが入れないため、来年以降検討する必要があるかもしれない。特定の外国人の行動には悩まされており、マナーアップ警備員も大変そうだった。タトゥーではなく和彫りの入れ墨をした人が闊歩しているのが目立ったのは課題だと思う。
 - 大きな問題はなかったが、今後起こり得る問題として、北風が吹いている時の海上の安全対策が必要だと思う。北風に乗って沖に向かってSUPが流されて自力で帰ってこられなくなった事例があったため、規制ではなく事故が起きないようにするにはどうすればよいか考える必要がある。
 - タワーウォーキングをしていると、雰囲気がよく、マナーアップされていると感じており、市の報告と体感は合っていると思う。しかし、最後の土日は海岸全体がかなり騒がしく、入れ墨を露出する人もたくさんいるなど、最後だけマナーアップができていなかった。これが期間中毎日だと辛いと思った。来年も静かな海を期待している。
 - 来場者が昨年より減っているが、飲酒の注意件数は多くなっている。パトロールに参加した際には、隠してでも酒を飲んでいる人がいた。いくら言ってもどうにもならないと思うが、何らかの方法で対応できないか。
 - 昨年からお願ひしていた海の家の上利用時のマンション側への目隠しについて、ご対応いただき感謝する。概ね好評だったため継続していただきたい。今年は来場者が少なかったが、炎天下で体をさらすのはきつく、個人的にも初めて海に行くのが嫌なくらい足が向かなかつた。海の家も大変だと思うが復活できるように願っている。
 - ファミリー層が来場され、逗子市が目指す安心安全なファミリービーチとして定着していると感じる。8月26日の海まつりと、シークレット花火は多くの方が鑑賞し、住民の方から喜びの声が届いた。期間中の周辺の清掃活動やパトロール含め、実施された逗子海岸営業協同組合に感謝申し上げる。一方、特定外国人グループによるルール違反行為は週末に繰り返して行われている。今年はマナーアップ警備員が巡回する時間になると、黒いビニール袋内に隠したラジカセを止め、酒類を隠し、マナーアップ警備員が離れると、音楽を掛け、酒を飲み出す。この繰り返しであり、更なる対応が必要だと考える。水上バイクについては、お盆までは台風の影響もあり、台数は多く無かったものの、8月下旬から9月3日までの週末は最大で80台弱の水上バイクが東浜の防波堤付近に係留された。中には最徐行運転を守らず、暴走する水上バイクもあり、危険を感じた。8月30日の暴走する水上バイクの様子を撮影した動画はテレビ局の取材を受け、他の地域での暴走行為と合わせて社会問題になっている。東浜への係留禁止や乗り入れ禁止、明石市のような防犯カメラの設置や条例での規制などを考えるべきである。また、水上バイクが逗子海岸へ来る目的の一つは海の家での飲食であり、酒類の提供について逗子海水浴場事業者・利用者ルールには「酒類提供を行わない旨を記載した掲示物を設

置し、声かけ等の注意喚起をする。」となっているが、酒類を提供している海の家があった。あきらかに酒類を提供しているのは海の家「VIVIANA」で、水上バイク操縦者が来ると、着てきたライフジャケットを海の家の手すりに並べるように掛けていた。9月3日の海上保安庁のパトロール時には海上保安官も指摘している。改めて、「海の家は水上バイク利用者（操縦者、同乗者を含む）には酒類を提供してはいけない。」とのルール改正を提案する。9月3日には、「水上バイクの集団がクーラーボックスを持ち込んで酒を飲んでいる。」との指摘を受け、確認すると、海の家「ウインドブランニング東」のスタッフと利用者がテーブル、イス、クーラーボックスを持ち込み、酒盛りをしていた。真空断熱タンブラーにビール等の酒類を入れ替えて飲むという、浜での飲酒禁止を知っていたうえでの悪質なルール違反行為である。水上バイクの操縦者は海の家の中に隠れて出てこなかったが、海の家が承知していたのは間違いない。常習的に行っていたとの指摘もあり、何らかの厳しい処分が必要と考える。街中を女性が水着姿で歩くのは如何なものかとの指摘もあった。以上が令和5年度の感想となるが、来年度に向けて指摘した点について議論して頂きたい。

- 今年度は体調を崩して海岸にあまり行けなかったが、他の人から話を聞くとテントが隠れみみになっていると思う。鎌倉でもテント内で死亡事故があり、どういうテントならいいか考えてほしい。
- 総括的に言うと近年では一番落ち着いていた。海の家全体の協力体制ができており、海の家独自の警備員2名を配置して、喧嘩やトラブルなどを未然に防ぐことができた。海の家利用者は、30%は減っていると思っており、ロッカーやシャワーの利用数から判断できる。暑さの影響で15時から来場者が多く来るが、この時間帯に来て来場者はロッカーやシャワーを使わないため、海水浴場全体で見ると、海の家利用者はもっと減っている。100%安心・安全・快適な海水浴場とまでは言えないが、ある程度は取り組めたのではないかな。
- 海水浴期間中、皆様のご協力により大きな事件や事故なく終えることができ、感謝申し上げます。ここ数年警備体制の強化を行ってきており、砂浜で酒を飲まないなどのルール違反行為を注意することに注力していた。今年度はアプローチの仕方を変えて、新しく立て看板に酒類を持ち込まないことを明記したり、外国人通訳アドバイザーを増員したりするなど、なぜこのような海水浴場のルールになっているのかの理解を得るための努力をすることで、安心・安全につながったと考えている。来場者が少なかったが、原因は暑さだけなのか、コロナを経て状況が変わったのか、来年暑さが収まると増えるのか、もう数年状況を見ないと原因は分からないと考えている。協力体制がしっかりしてきたことで、安定して運営ができているが、安心・安全な海水浴場を維持しながら、どのように来場者を増やすことができるか、今後探っていきたい。
- 今年度は暑かった。午前中は地元の人しかいない状況で、土日のイベントでも午前中の場所取りの苦勞はみられなかった。わっしょい逗子海岸のイベントは、荒天中止となった小坪で行うスノーケリング体験以外は全て実施することができた。来場者が減っている中でも、ウォーターパークの利用者は過去最多の人数となり、無事事故もなく運営できて、皆様のご協力に感謝申し上げます。
- 金曜日の夜に海の家が終わっても、ずっと海岸にいる人がいた。警備員が遅くまで警備しているのを確認できた。週末は駅に向かう道路に人が多く、車がすれ違うのが大変そ

- うな印象だった。今年初めて生死にかかわるケースがあったと聞いたが、海水浴に関わることだったのか、それとも持病によるものだったのか。
- 日光浴をしていて容体が急変したようだ。
 - 逗子の海は他所から来た人が大喜びするくらい魅力的な海で、来場者が減ってもそれなりの人は来ているため、不都合が生じるのはある程度はしょうがないことだと思う。ここがダメだという話がよく出るが、その解決策がこの会議で出ないため、ダメなら辞めてしまうのがよいと思う。砂浜の上では一切酒は飲まないようにし、海の家で飲むことを徹底しないといけない。ルールを守らない常連外国人は来ないようにするしかないため、所属の団体等にもう来ないようにプレッシャーをかける必要がある。マナーアップ警備員についてはすごく働いてくれて感心したが、警備員の制服が黒のため、暗いと分かりづらかった。最終日はどうしようもなかったが、そのあとの一週間もひどかった。バーベキューがやりっぱなしで、タバコも吸いっぱなしだった。タバコの吸い殻は火事になるため注意が必要である。今年は警察車両の出動が多く、新宿会館の横に止めたいとの依頼が多かった。そこも含めて治安を守る手立てを考え、規制をかけるものにはしっかりとかけてほしい。
 - 今年は暑いが良い夏だったため、みなさんに感謝する。個別には色々な課題が残っているが、会議もピリピリしておらず、壊滅的な状況ではないのも事実だと思う。また、ある程度外的な要因で海水浴客が減るのは仕方ないと思うが、逗子として海水浴場がどうあってほしいかをそろそろ考えるべきだと思う。もっと来てほしいのか、来てほしくないのか。ある程度将来像があって話し合えると良いと考える。市の諮問機関があるのであれば手伝いたい、そのためにはデータが大事で、来場者の中の外国人の比率やどこから来ているか、なぜ酒を飲むのかなど、定量化された数字だと優先順位をつけて、どう対応すればよいか明確になる。海水浴場の入口で酒を持ってくるなどと言っても持ち込んでしまうため、来る前に情報を投げ込まないといけない。そろそろできることをやり尽くしたと感ずる部分もある。
 - 屈強な警備員がいて心強かった。海岸への往復で警備の人がパトロールしていることも心強く感じた。ごみも減ってよかったが、解体の最終日に釘が大量に残っているというボランティア団体の SNS の投稿を見た。毎年釘と木片が残っているとのことであり、海水浴場は良い状況になっているため、最後の最後にそれはもったいないという気持ちになった。海水浴場期間中のパトロールと同じように、最後に釘拾いの活動が出来たらいいと思った。磁石で拾うのか分からないが、地元の人がやっているのであれば運営側もやってもいいのではないかと。
 - ルールでは、9月の三連休最終日まで建物解体となっており、その後残置物撤去などを行っている。一般の方は建物が無くなると解体作業が終わったと考えてしまうことがある。実際には建物解体が終わった後に、強力な磁石が付いた重機で釘を拾っているが、車両が通ったり、風で砂が舞ったりすると埋まっていた釘が出てきてしまうこともある。釘を残さない努力はしているが、意見は真摯に受け止めたい。
 - 建物がなくなった時点で解体終了だと思ってしまうのかもしれないため、建物がなくなってもまだ解体期間中だと分かるように工夫する必要がある。
 - 5月と9月に強風が吹く予報があり、管理者として緊張感があったが、幸い大きな事故の報告はなくて安心した。渚橋の工事の影響で、期間中に駐輪場や導線などでご不便を

おかけして申し訳ない。ご理解とご協力のおかげで工事は順調に進んでおり感謝申し上げます。

- 来場者が減少している中、大きな事故がなかったとのことでお疲れ様でした。協力できる場所があれば対応したい。
- 今年は警備体制を強化したが、逗子署の規模が小さいため機動隊に協力を要請して5名で警戒し、一定の成果は出たと思う。複数の署員からいろいろな意見が出ているため、来年に向けて検討準備していきたい。
- 海の家解体後に重機で鉄屑さらいをしていたのは県内の海水浴場で鎌倉と逗子だけであり、原状復旧することは当たり前だが、海岸清掃を行う団体として感謝する。重機だと砂浜の中の釘も拾えて効果的だが、北風が吹いたり、雨などが降って表面の砂がなくなるとまた出てきてしまう。熊手にマグネットをつけて釘さらいを冬場の風が吹いたあとに行っており、逗子では大体200~300本採取できるが、他の浜でやると1,000本近く出てくるため、逗子は原状復旧ができていると思う。ボランティアでやりたい場合には、物品を貸与しており、送るのは送料負担が発生してしまうが、市に預けておいたり、取りに来たりしてもらえれば無償で貸与できる。6月2日の台風の際、丹沢で300mmくらいの雨が降ったが、その影響で流れ出た流木が押し寄せ、海岸が流木だらけになった。6月末までには復旧できたが、逗子海岸西側に流木が積まれていたのはその時の残りである。今夏はあまりごみが漂着せず、落ち着いていたと考えている。
- 海水浴場に向かう道中や、海水浴場内で聞こえてくる会話で「逗子はルールが厳しいらしいよ」と複数回聞いたため、広報の成果がでていると思う。子育て世代が「ライフジャケットの無料貸出しがよかった」と言っており、少しずつやっていることが浸透してきていると感じる。ライフジャケットの貸出実績がどれくらいか分かるとよい。ウォーターパークを何年もやっていて飽きられないかと思っていたが、多くの利用者がいてよかった。自分でも久しぶりに遊んだらとても安心感があり、遊具から離れたところで困っている人がいるとすぐに係員が来てくれてよかった。ワーケーションの関係で親子でウォーターパークを楽しむという企画があったが、子どもたちが「来年も絶対来る」と言っており、そういう呼び込みもいいのではないかと思った。環境美化協力募金については、ごみ処理の受益者負担の話が検討会でずっと出ており、それが一つの形になり前進したことはよかった。検討会メンバーにブルーフラッグ関連のイベントを事前に教えてもらえると情報の拡散ができるため、事前の情報提供をお願いしたい。

3 その他

- ・事務局より、今後のスケジュール等について説明を行った。
 - 来年1月を目途に、検討会としての報告書をまとめる。11月8日に検討会を開催して課題の整理と対策について協議していただきたい。

以上